

『魔法の当たらにんじん』

大阪府吹田市立山手小学校 五年一組 女子 野本 更紗

私の学校には、『当たらにんじん』というものがある。

『当たらにんじん』とは、ハート型や星型などの型でにんじんをくりぬいてできるもので、よく、スープやお味そ汁などに入っている。そこに入れる型ぬきにんじんは、少ないので、そのにんじんが自分のおわんに入っていたら、その日一日いいことがあるといわれている。

私の学校では、にんじんがキレイな人が多いので、『少しでも食べてもらいたい！』という調理員さんたちの願いから生まれたそう。実際に、私の今のクラスメイトの中でも一人、当たらにんじんでにんじんが好きになったという人がいる。

これだけでもすごい当たらにんじんだが、もっとすごいことが起きた。それは……。
二年生の半ばぐらいのある日。その日の給食はたまごスープだった。

私は、たまご料理が好きだった。その中でも特に学校のたまごスープが大好きで、毎回メニューに『たまごスープ』と書いてあるのを見つけると、大はしゃぎする。

でも、その日は、はしゃがなかった。『たまごスープ』と書いているのを見つけたけれど、うれしいとは思わなかった。友達と、ロゲンカしたからだ。

相手も私も、いかりが頂点に達していたので、だれが止めようとしても、止まることはなかった。

そのまま食べ始めようとした。でも、これだけじゃ足りないなあ、と気付いて、たまごスープを増やしに行った。そしたら、相手がいた。相手は、たまごスープがキレイで、減らしに来たようだった。相手は、じーっと私の方を見つめている。『どこを見ているんだろう？』と違って、相手がみていると考えられる所を見ると、まちがいはなく私が今手に持っているたまごスープのおわんだ。中には、星型の当たらにんじんが入っていた。見つめられるまで、気付かなかった。

その時、私はふと思った。「もしかして……」予感的中した。相手のおわんの中にも、星型の当たらにんじんが入っていた。

それから、たまごスープを増やした後、もうスピードで食べて、もうスピードでかたづけ、全ての用意を終わらせて、相手が食べ終わるのを待った。食べ終わったのを確にんして、相手のところへ行った。「さっきはゴメン。」そう言うと、相手は、「実は……私もあやまるうと思っただ。ゴメンなさい。」と言った。ちゃんと、仲直りできた。

その日、その子と一しょに帰った。あの当たらにんじんのことを話しながら。

魔法にでもかかったみたいなのに、すぐ仲直りできた。その日から私は、星型のにんじんを、『魔法の当たらにんじん』とよんでいます。